

大腸がん術後連携パス（説明書）

【目的】

大腸がん治療において、当院で手術を受けた後も安心・確実な診療が継続できるよう、かかりつけ医と患者さんの診療情報（治療方針や治療結果等）を共有することによって患者さんを支えることを目的とします。

「連携パス」とは、地域のかかりつけ医と中東遠総合医療センターの医師が、あなたの診療情報を共有できる「診療計画表」のことです。「大腸がん術後連携パスの小冊子（名称：術後連携ノート）」を活用し、かかりつけ医と中東遠総合医療センターの医師が協力して、あなたの診療を行います。

【流れおよび方法】

患者さんのお住まいの地域の診療所（以下「かかりつけ医」）と当院が、地域診療連携計画「大腸がん術後連携パス」を使って、診療情報のやりとりを行います。病状が落ち着いているときの投薬や採血検査や日常の診療はかかりつけ医が行い、専門的な検査や治療のときは当院を受診していただきます。

この大腸がん術後連携パスを使用して計画的に患者さんの診療を行っていきます。

【期待されること】

大腸がん術後連携パスを使うことによって、患者さん・当院・かかりつけ医が協力し、患者さんの視点に立った安心で質の高い医療を提供します。また、患者さんにおいては待ち時間の短縮といった負担軽減、ご自身の診療計画や経過の把握、身近なかかりつけ医の診療による不安の解消といったメリットがあり、診療方針や検査結果を共有することで一貫した診療が可能となります。

【連携パスの中止と患者様の権利について】

大腸がん術後連携パスは、診療計画があなたに合わないとき、病状が悪くなり治療方針が変わるときに医師の判断でその使用を中止します。

患者さんやご家族にとって、大腸がん術後連携パスを使用することに抵抗がある場合は、拒否する権利があります。また、既に大腸がん術後連携パスを使用して診療を行っていても、患者さんの判断で中止することができますので、担当医師に相談してください。なお、中止することで患者さんが治療制約等の不利益を被ることはありません。

【費用と注意事項について】

通常の診療費以外に、大腸がん術後連携パスによる追加の費用負担はありません。

「術後連携ノート」には、患者さんご自身の病気、治療や検査結果等の個人情報が書かれていますので、失くしたりしないよう責任を持って管理をお願いいたします。

かかりつけ医や病院を受診する際には、必ず「術後連携ノート」をご持参ください。

【質問や相談ごとについて】

分からないことや心配なことがありましたら、いつでも担当医や病院スタッフにお尋ねください。